

嘉戸町長 所信表明

この度、町長に就任することとなりました嘉戸隆でございます。

本日の臨時議会で、町政運営にあたっての私の所信を申しあげさせていただく機会を頂戴いたしましたこと、お礼申し上げます。

去る10月30日告示の美郷町長選挙に際しまして、沢山の町民の皆さまの温かいご支援をいただきました。誠にありがとうございました。まずもって、御礼申し上げます。

町民の皆様からの大きな期待とその職責の重さに、改めて身が引き締まる思いでございます。

私は粕淵に生まれ育ち、粕淵小学校、邑智中学校に通いました。そして、高校卒業後には県外に出て、気が付けば人生の3分の2を県外で暮らしたことになりました。いわゆる「外に出ていった人間」です。

よく、地域を変革する鍵を握るのは「若者、バカ者、よそ者」の3種類の人間と言われます。

この言葉は、信州大学教授、法政大学大学院教授などを勤められた真壁明夫先生の「若者、バカ者、よそ者～イノベーションは彼らから始まる」という本で初めて提唱され、元岩手県知事、元総務大臣の増田寛也氏などがよく使われています。

若者とは、必ずしも年齢が若いだけでなく、固定観念や過去のしがらみを持たず、強力なエネルギーを持つ人のことであり、バカ者とは、旧来の常識にとらわれず新しいことに果敢に挑戦し断固やり抜く信念を持つ人のことであり、よそ者とは、従来の仕組みややり方を客観的な目で眺めて外部のより良い知恵を取り入れる人を指します。

私に期待されているのは、美郷町への郷土愛を持った「よそ者」として呼び水となり、こうした方達が伸び伸びと活動できる環境をつくり、町を活性化して欲しい、ということだと受け止めています。

とは言え、長く地元を離れていましたので、町民の皆様の中には、私をよく知らない方が多い、町の現状をよく分かっていないのではないかと、行政経験がない、といった点でご不安に思われる方もいらっしゃると思います。

1月5日の就任以来、挨拶まわりの過密スケジュールの間をぬって、まずは私自身の目で見て、耳で聞いて確かめることが大切だと思い、できる限り町内各所に顔を出させていただきました。

これまで、吾郷、乙原地域の「山くじらの取り組み」や「青空サロン」、比之宮地域の「比敷ドリーム」「むらじ」やリースハウス、君谷の「花とみつばちの里づくり」、「双葉園」「邑智園」などの施設を訪問してまいりました。

これからも、自ら町内に出かけて、実情把握を続けていきたい、と思っています。

また、行政については、経験豊富な副町長、教育長をはじめ職員と、しっかりコミュニケーションをとりながら、猛勉強しています。各課の業務、課題について、行政の最高責任者として精力的に把握に努めているところです。

次に、私が目指す2つの町の基本的なあり方について、述べさせていただきます。

1つ目は、「活気あふれる明るい町」です。

「活気あふれる明るい町」は、行政が押し付けてできるものではなく、町民一人ひとりが、自ら考え、協力し合い、取り組んで、初めて実現するものです。

主役は、町民の皆様です。行政は、そのために、いかにお手伝いができるかだと考えます。

このため、今までに増して、幅広く町民の声を集めコミュニケーションをとって、様々な課題と一緒にあって真摯に向き合う必要があります。

私自身先頭に立つのはもちろんですが、職員一人一人がお聞きした声を、定期的に私に報告する仕組みづくりを、早速行いました。併せて、部署を超えたスムーズな対応を可能にするために、その情報を全職員で共有することも指示したところです。

できることとできないことがあるとは思いますが、しっかりと声を受け止めて、行政に反映していきたいと思えます。

また、美郷町の強みである連合自治会などをベースとして、町民自ら行う地域課題の解決に向けた取り組みを支援し、自治の精神にあふれた町づくりを進めていきたい、と考えております。

更に、町の活気の醸成には、農林業などの主要産業の持続、発展も重要となります。事業者の方の声をお聴きし、その振興に努めてまいります。

2つ目は「町外と活発な交流のある町」です。

今後の町の発展を考えたとき、内輪の頑張りだけでは限界があります。

町外のひと・もの・かね・情報を取り込むことが、今後の発展には不可欠です。これまで以上に、積極的に外部の知見を取り入れ、交流人口、関係人口の拡大を図ってまいります。

しかし、これらを進めていくのは、簡単なことではなく、いくつかの大きな課題があると考えています。

例えば、「情報発信力」です。

情報発信には、町内向けと町外向けの2つの意味がありますが、双方とも改善の余地が大きいと思えます。情報の中身の充実はもちろんのこと様々な媒体の活用や使い分けにも知恵を絞り、効果的な情報発信に注力したいと思えます。

「産業の誘致・創出」も課題です。

美郷町の定住支援メニューは大変充実しています。しかし、いくら住みやすくても、働く場が無いと人は来てくれません。

あらためて申し上げるまでもありませんが、美郷町は、高速道路や空港、駅、港が近くに無いという大きな地理的ハンデのほか、産業の集積が乏しいといったハンデを抱えています。

簡単ではありませんが、これらのハンデが誘致の決定的なネックとならない産業、人材などをターゲットとして、アプローチすることを考えてまいります。

また、外部の知見を取り入れるといった脈絡では、「新技術、規制緩和の活用」も課題です。

世の中では、人々の行動や生活スタイルを一変させるような数十年に一度の新技術が生まれています。

例えば、インターネットです。瞬時に情報が検索でき、買い物、通信ができるようになり、私たちの行動は、一気に大きく変わり、生活に不可欠な存在になりました。

こうした世の中を変える新技術は、どんなに頑張っても内輪の努力で生まれるものではありません。

情報のアンテナを高くはり、「美郷町にどれだけ役に立つか？」という観点で、活用できるものを、積極的に取り入れたい、と考えています。

いずれにしましても中長期の戦略的な取り組みが必要であり、私が先頭に立って、継続的に取り組んでまいります。

一方、職員には3つの意識を持って仕事を進めてほしいと初登庁後の就任式で伝えたところです。

1つ目は、役場は「住民総合サービス株式会社」であるという意識です。

例えば、町長は「社長」、副町長は「副社長」、管理職は「役員」、職員は「社員」です。町民は、税金を納めた「株主」であり、サービスを受ける「顧客」でもあります。

サービス業である以上、当たり前の話ですが、顧客に満足していただく必要があります、顧客を向いて業務に取り組むことが出発点です。

2つ目は、ビジネス感覚の意識です。

ビジネス感覚というと、金もうけというような言葉が連想されて後ろめたいイメージを持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが、それは全く違います。民間企業が、継続して利益をあげ続けるのは簡単なことではありません。

利益をあげ続けるためには何より顧客から支持される必要があります、「顧客の声に真摯に耳を傾ける」すなわち顧客ニーズを掴むことが、まずは出発点となります。

顧客ニーズも変化しますから継続してコミュニケーションを取り、新しい商品やサービスの提供、場合によっては新規事業の立ち上げを行っていく必要があります。

一方、顧客への商品・サービス提供に気を取られすぎれば、お金ばかりかかってしまい赤字になってしまいます。経費削減や効率化によるコストコントロールも必要です。

また、スピード感も重要です。

このように、真っ当なビジネス感覚は、町民に対して行う行政サービスにも通じる普遍的な能力であり、役場職員も、こうした能力を磨く必要があります。

3つ目は、改革マインドの意識です。

ゆでがえるの例え話があります。鍋の水の中にカエルを入れてゆっくりと温度を上げていきます。少し温度が上がっても、カエルはそのまま鍋の中から出てきません。しかし、更に温度を上げ続けていけば、カエルは飛び出すきっかけがないまま、しまいにはゆで上がって死んでしまうというものです。

人間は変わることに対しては、おっくうなものです。特に緩やかな変化の場合にはついつい現状維持に走り、気が付けば手遅れといったことが往々にして起こります。

翻って、美郷町を考えた場合、取り巻く環境は決して楽観はできません。今後ますます厳しさを増して行きます。職員には、徐々に鍋の中の温度が上がってきている状況だという危機感を持ってもらいたい、と伝えました。

氷河期に生き残ったのは最強の恐竜ではなく、環境変化に適応した少数の生き物たちです。

変わることがリスクではなく、変わらないことがリスクの時代です。

「前例がない、制度がない、時間がない、金がない」というようにできない理由はいくらでも見つかります。しかし、何の役にも立ちません。できない理由ではなく、どうやったらできるのかを考えてもらいたい、と要請しました。

そして、私は「金はないけど知恵がある」と全国から言われる役場を目指したい、と考えています。

以上、私の町政運営に関する基本的な考え方を述べさせていただきました。

町民の皆様、議会の皆様と一緒に、美郷町の輝く未来を実現すべく精一杯の努力を続けてまいります。

議員の皆様におかれましては、何卒ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。町長就任の所信とさせていただきます。